

# 藥師寺西僧房等発掘調査現地説明会資料

## 1. 西僧考察の調査

三氏より小寺の信置の方出桂ト山位は北検面長房堂ヲ地は基  
杉のモ毛前壇田り、は大石同僧食、空密の査(田)、(田)  
發掘して調査、画焉に寺検出回行で前壇田り、は大石同僧食、空密の査(田)、(田)  
葉房3に屋も小石、子房並ヒと解。つとの子房並ヒと解。つとの子房並ヒと解。  
に僧ハ房萬ハ・東て僧付底屋すがつ西子の萬  
は、調査するあか付底屋れにてたかに間段房れ  
りつら置の大ら  
つ行明位房石、立  
僧年つ村部壇の一大ら  
寺和圓房の房玉り考  
昭和45年に一基2.1.mも  
平僧房の房玉り考  
えられた

第10房、2等あよ扉に床は分室中窓の所を五間ずの性  
ら十七三りせ323が間内棚区と後は2がれどや一行一  
か9第6通わほのれ穴土と、1段房2室。ヒラナ博、平同物  
房(3)が2号室中。もれ室間五秀各のみ博口くにも建  
一mか2間に面したみは3.25=へ第7。主モド・になれと株  
第4房下の石正しに面なれば西方。3.25で所瓦後が2房北  
く1室の覆はと間正ヒニ東外く三木定ね各、も房ヒ各南  
1つ間第三6地柱口共、日、分、のつ第6推重も石子物は。  
に梁あ後覆修こ共に広へての7くのま差こ種以嫡庶ぐ付。  
り4、2、3、間非中2扉り半、2、3が、みがにに五切小建れ3.  
と行リ室石しのをは間のお西m、扉たがと状外に岩山に属ニハ  
方、2、3、改。中室2室れ室2.2mにたし石下凝すの3.2  
西は)中の3.2m前後さは×は開た方の覆屋子、棟川さ  
のさえ・岩後ニ2.6m選床の跡片れり在、地。けは北2選  
堂き10前仄、2、3、部×分配。は痕ドラ使存ヒ岩ねう例南1配  
食大+は凝ド1.1、1.6半と3室の面みのがの灰重を比の在  
の10房はたりあ、は突然、き後壁東が室壁も窓の脚の)存導  
り、房(各に。たに2室2室2。・、布後ド1.6mが石  
あ1mの面1.1是間央壁が原3.2は散、部2.3前破棚大2.7地五  
物大間大、しをのて。分面が2.3西石あのをはづ床3.2室例  
達。2.3在口)1.3半歸況れ面。磁、2.3瓦況上、1.1xに東  
長し折半mは2.5列が2.2博、2.3あり痕れにひかまれ4.2m  
房に2.3柱ね6.原跡面やけ設は2.32.3側修の。ら2.3画建  
道2.3連+は痕背石設て例2.3ベ張み面補床3.2西区2.3  
の東を2.3馬m間を2.3部り。切を1.3東よ並床が、スハハガ葉2.3側  
しは2.39は6.中ビナ内張る岩棚接。たを様列は房ど2.3き(薄西  
房ま+には、革6.麻な仄ヤに3.2瓦同瓦に2.3大半し2.3間石で  
大房10間室初瓦(うなと底)2.3壁れては間は列。室入ド3玉摸  
セ+の前当平介3.2口は張索さつ2.3共に瓦子。後持石×2.3想

は房心梁より數段後物なに棚なく分子柱にて石紀遺れ様に棚小側)定れば世土士同側にてた。北尺椎に10出建も東廊画れ大(と破一房がほりか渡り区らう間ごて。僧も房おと溝みが23溝3西れ僧にこ溝み3尺あは。西査の石キ10ざ半ざる知の調このは面つらき單云敷ごく棟大のれが今、僧も房も半知ぞるに不同東房たみこ査僧多る東の房がとことかあるけとよ子ねが下調東にれの回僧も房とぞ全細考す小ら設しへの例ら段今明るるこれは詳大と・ほ危失回般東サ先く、がす之も房のほ房屋に奉焼今先のけ、がよど在瓦あつ七を行一萬半護には。房裏はたて存料仕切能がされ、)び代し年れ物とつ示き用属し間一はどう年とといて僧見狀事にくの内にして明溝52の溝を千ヒの2れの1房解況のはの内に不の尺房の石祿もれら幸存僅間多くて

## 2 食堂跡の調査

食堂については、昭和45年の調査で、位置・基壇規模（南北長21.7m、東西長46.8m）・正面階段と基壇周囲の状況が判明しました。



# 藥師寺各年表

天武9年11月（680）藥師寺の建立を発願する

養老2年（718）伽藍を藤原京より平城京（右京6条2坊）に移す

天平2年（730）東塔を建立する

延長2年正月（924）藥師寺の僧惠總、自己の本坊と最勝会講師房（桧皮葺房）を交換することを拒む

天祐4年2月（973）食殿堂童子宿所より失火して、食堂・講堂・僧房・回廊・中門・南大門・経樓・鐘樓などを焼失する  
(焼失前、僧房は東・西・東南・東北・西南僧房、桧皮葺房など14宇あり。東南・西南・西僧房、桧皮葺房など焼失す)

天祐4年～長保2年（973～1013）直ちに再建を詔勅に命す。講堂・中門・鐘樓・食堂・南大門・経樓・回廊・僧房を再建す、僧房は東・西南・東南僧房、桧皮葺房を再建、小字房は10間が焼け残り南6間を造堂する。鐘樓は1005年建法寺の鐘を曳きて旧棟跡に再建する

承祚元年8月（989）大風によって金堂上層倒壊する。直ちに修繕する

嘉和4年4月（1102）西室丈房で写經される。この頃西室あり

承久4年2月（1116）西北室で写經される。この頃西北室あり

保延6年（1140）この頃食堂あり

崇元元年4月（1156）興福寺丈泉、藥師寺を焼く

永元元年11月（1165）權別當行惠、堂塔・僧房・門・築垣などを旧の如く修造することを願う

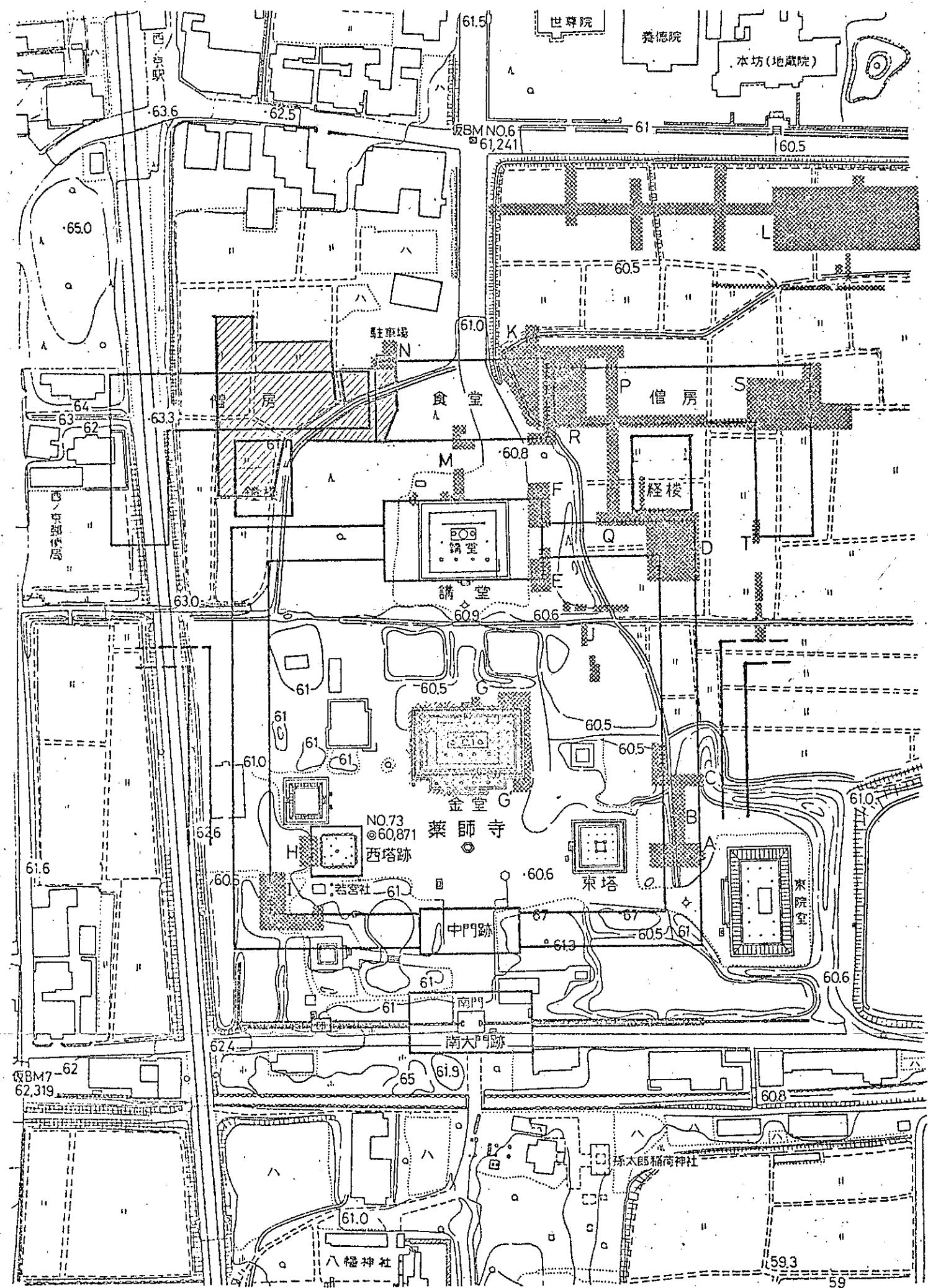
文安2年6月（1445）大風により金堂・南大門倒壊する

永正10年10月（1513）兵火により西室・西院など焼失する

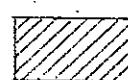
大永4年10月（1524）金堂を再建する

享禄元年9月（1528）兵火により金堂・講堂・中門・西塔・僧房など焼失する

延宝2年正月（1674）鐘樓を金堂の東に移す（現鐘樓）



既調査地区



今回調査地区

49. 12. 07

藥師寺西僧房発掘調査略平面図

